

# 広報 あかいけ

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 ☎(代表) 2004  
印刷所 赤池印刷 毎月 1回発行

人口	9,616人 (減22)		
男	4,576人 (減13)		
女	5,040人 (減9)		
世帯数	3,158世帯 (減6)		
出生	12人	転入	23人
死亡	7人	転出	50人
(昭和57年8月末日現在)			

## 夏の終わりに多彩な行事



【キャンプファイヤーを囲みたのしいひととき】

## 初めての楽しい屋外体験

### 11支所 わかば子ども会 キャンプ

夏休みの8月21日、22日の2日間、第11支所『わかば子ども会』では、約50人(子ども会35人、育成会15人)が参加し、地元の若八幡神社(本町)境内で『子ども会キャンプ』を行いました。

例年の『夏の夕べ』を変更して今年初めて行われたこのキャンプは、1日目飯ごう炊飯にバーベキュー、夜のキャンプファイヤーを囲んだゲームや歌、また、きもだめし、花火大会など楽しい一夜をすごしました。二日目も朝食は自炊にはじまり、ソフトボール大会などが行われ、日頃できないこの屋外体験は、今後の子ども会活動の発展に役立つことでしょう。

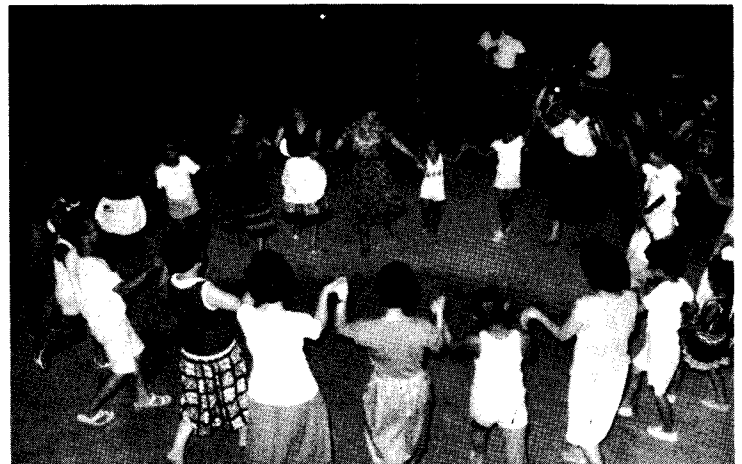
来年は、すこし遠方まで行くよう企画しているそうです。

## 『千燈明』で行く夏惜しむ

### 5支所 四ッ葉会

8月21日、午後6時半から5支所鋤木田四ッ葉会(野村雅教会長。38世帯)では、恒例の『千燈明』行事を行いました。

子どもすもう大会、ラムネ早飲み競争、カラオケ大会、ダンスと盛りだくさんのプログラムが用意され、子どもたちは、大はしゃぎで行く夏を惜しむかのように、夜遅くまで踊り、語り明かしました。



【親子でダンス、5支所四ッ葉会のみなさん】

57年

10月

№.237

なお、この四ッ葉会は、昭和52年、地区住民の親睦を目的に設立された会で、町の公民館行事への参加や、汐干狩り、キャンプと会独自の行事も取り組み、地域のコミュニティー創りに大きな役割を果たしています。また、『千燈明』という行事は各地にあるようですが、昔、牛馬が農家にとって大切な働き手であった頃、牛馬の病いが流行し、人びとは、近くの守護神に燈明千本を立て、厄払いをし、子どもすもうをしたのが由来とされています。

10月は町民税3期分・国民健康保険税4期分の納税月です。

多趣、多様な職員の

芸に爆笑の渦 天郷荘敬老会

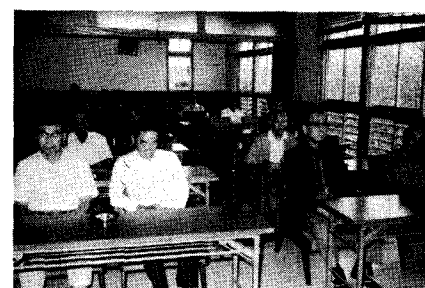


【橋本美穂さん(8歳)の踊りにうっとり見入るお年寄り】

赤池町の敬老会は、気候などを考慮して、今年も一月遅れの十月十五日に行われる予定ですが、老人ホーム天郷荘(藤野八郎荘長、四十六人入荘)では、九月十六日、香月町長、山下町議会厚生常任委員長を招持して、敬老会を行いました。

健康優良家庭を表彰

九月十六日午前十時から、役場で昭和五十六年度の国民健康保険優良家庭四十五人の表彰が行われました。これは、この一年間無診療で、国保本来の目的である相互扶助の精神



【健康優良家庭として表彰を受けるみなさん】

をよく理解され、五十六年度までの納税を完納された方を健康優良家庭として表彰したもので、表彰状と記念品(番茶器セット)が贈られました。

表彰された四十五人は、次の方がたです。(敬称略) 佐藤寅(天郷荘) 林イト(同) 村坂軍太(同) 松本幸則(皿山) 名本真二(原) 島田鉄夫(天郷) 白井忠(堀田) 城野三男(常福) 久原幸子(同) 松岡晃(原田) 宮崎フサ子(諏訪山) 小松巧(大浦) 梶野健次(草場) 木村キヨ(八の三) 平川政光(八の四) 黒土ノブ(東組) 木月茂美(岩屋組) 柿本信治(上の原) 宇野チヨノ(貴船近藤隆市(本町) 土師君子(同) 本多計年(昭和町) 藤川温水(猿畑) 川原シゲノ(稲荷) 高原義明(車道) 古川龍徳(同) 今住フサ子(同) 乾信子(同) 朝倉信子(徳人原) 山内与荘(同) 藤重武(同)

伏原(二隔タカエ(高尾) 神野寿美恵(松本) 平岡義明(東町) 浦田梅治(同) 岩城昭二(中町) 水上光夫(北町) 水上正(新町) 木村秀芳(西町) 伊田屋加代(同) 安田虎男(同) 堀池友行(同) 門柳久吉(伏原) 野口勝昭(町伏原) 野崎正文(同)

10月のこよみと行事 和名 神無月(かんなづき) 八百万(やおよろず)の神々が出雲の国に集まりましたまうということから、また、雷が無くなる月ともいわれる。



【町長から安全旗を受け取る3校長】

秋の交通安全県民運動を前にした九月十六日、赤池町交通安全推進協議会(香月章会長)ならびに田川交通安全協会赤池支部(奥永昭政支部長)から、町内の小学校および四保育所に、交通安全旗とホイッスルボタンが贈られました。

- 1日(金) 共同募金運動はじまる 覚せい剤・麻薬事犯取り締り強化月間 法の日 更衣 十五夜
5日(火) 婦人学級(町民会館)
6日(水) 料理教室(町民会館)
7日(木) 心配ごと相談(10時から)
9日(土) 町統一秋祭り(のど自慢)
10日(日) 町統一秋祭り(山笠)
12日(火) インフルエンザ(13時から)
14日(木) 養命大学(10時から)
15日(金) 町敬老会(10時から)
17日(日) 行政相談所・心配ごと相談所開設(10時から)
18日(月) 三種混合(13時から)
19日(火) 婦人学級(町民会館)
20日(水) 行政相談所開設(10時から)
24日(日) 料理教室(10時から)
26日(火) 町民ソフトボール大会(10時から)
27日(水) 生ワクチン(13時から)
27日(水) 心配ごと相談(福祉センター)
28日(木) インフルエンザ(13時から)
養命大学(10時から)

新チーム・上野イーグルス初陣飾れず



【新チーム、上野イーグルスのみなさん】

毎年、夏休みの練習成果の発表の場として、各地の強豪チームを招待して行われている赤池町少年軟式野球大会が、九月五日、町民球場で行われました。

今年、佐賀県からの招待チームをはじめ、地元赤池から二チーム合計八チームでトーナメント戦を行い、上野イーグルスは頼田ライオンズと対戦、一対八で敗れましたが、強豪を相手にしたハツラツとしたプレーが好感をよび、今後の活躍が期待されます。

二つの大会で活躍 八月八日、十時から飯塚市体育館で全筑豊地区少年剣道大会が行われました。当日は、気温三十三、四度という猛暑の中で総勢八百人の少年少女剣士が技を競い合い最後まで見事な竹刀さばきを披露しました。赤池から出場した選手の成績は次のとおりです。

同じく八月八日、川崎町民会館で第二十二回郡民体育大会の剣道の競技が、日程を繰り上げて開催されました。赤池チームは、予選から選手の間で先鋒抜きの四人で戦い、見事決勝戦まで駒を進め、決勝では先鋒不戦敗で惜しくも敗れましたが、ハンデいを克服しての活躍は見事なものでした。

昭和57年度敬老会

- とき 10月15日(金) 午前11時から
○ところ 赤池町民会館
○該当者 大正2年3月31日以前に生れた方



行政相談週間 10月17日~23日



親切、ていねい、迅速な窓口をめざして、あなたの生活と行政をつなぐパイプ、それが行政相談業務です。あなたが持っている行政への苦情や要望を聞き、解決を図ってくれるのが、行政相談委員です。

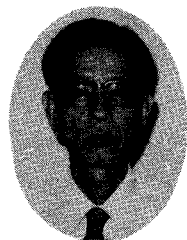
行政相談所が開設されます あなたの生活と行政をつなぐパイプ役として、お気軽にご利用ください。

週間中の行事として、赤池町では次の日程で行政相談所を開設いたしますので、ご利用ください。この機会に、あなたの日頃もっている悩みや要望を申し出て下さい。もちろん相談の秘密は守られ、費用は無料です。

今年も「親切、ていねい、迅速な窓口をめざして」の統一テーマの下に、十月十七日から「行政相談週間」が始まります。行政管理局では、各県に行政監察局を設置し、市町村には、特別にお願いした、皆さんの相談相手となっていた行政相談委員制度があります。

参加選手は次のとおりです。先鋒不在、四将長谷川政二(誠)、中堅田島成人(隆)、副将武末一郎(隆)、大将田田淳一(誠)、監督上村常夫(敦)

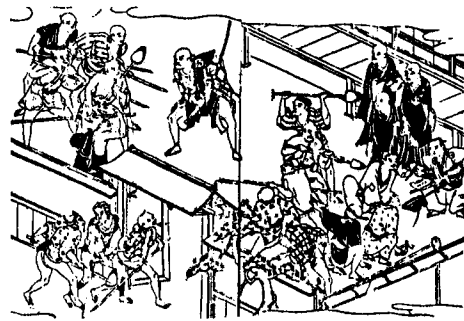
連絡先 赤池2595 岡田宗治氏



# 差別をなくすため

(7)

## 江戸時代の農民のくらし②



前回では、苦しい農民のくらしについてのべましたが、今回は、百姓一揆についてのべてみたいと思います。

洪水などの災害で稲などの収穫が悪かった年や、年貢が引き上げられたときには、農民たちは、決められた年貢をおさめることができません。それで、年貢をへらしてもらおうに役所に願ひ出ました。それが聞き入れられないとき

には、いつせいに村をたのいたり(名主(庄屋)が代表者となり、大名や代官にうったえ出たりしました。

小浜藩(福井県)では、城の改築費用にあてるという、年貢を引上げました。しかし、城ができたあがつても年貢は、元通りに下げられませんでした。

そこで、農民たちは大名に願ひ出しましたが、藩は、その名主たちをとらえて、ろうに入れたまいました。しかし、名主の子でそのかしらだつた青年の松木長操は、それにもくつせううたえ続けました。そして、九年後によく願ひが聞き入れられました。しかし、長操は、藩のおきてを破つたものとして、死刑になりました。

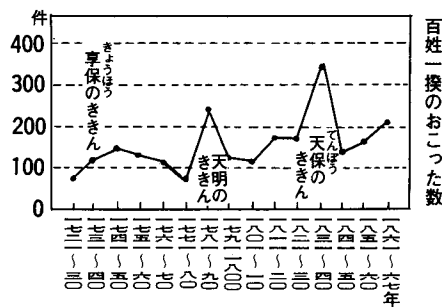
百姓一揆は、その後、しだいに一つの藩全体をまきこむほどの、大がかりなものになっていきました。農民たちは、年貢をへらしてほしいとか、役人が悪いことをするとか、うったえ出るだけでなく、むら旗をたて、かまや竹やりをもって城下におしかけ、力づくで藩とこうしようするようになった

のです。百姓一揆は、江戸時代を通じて全国で三、〇〇〇回以上もおこつたといわれています。

小倉藩では、台風や洪水などによるききんの災害は、三〇回をこえ、中でも享保十七年(一七三二年)のききんでは、藩の餓死者は四万人とも七万人とも言われ、全人口(当時の人口約一五万人)の三分の一から二割に上つては、半数にもおよびました。

田川郡(人口約三万人)では、七千人近くの餓死者を出しています。伊田成導寺には、当時の餓死者の供養塔が、今も残っています。

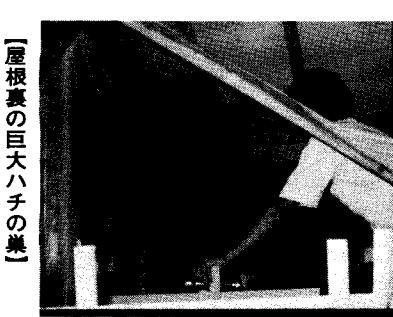
この餓死者の中に、武士は一人もふくまれていません。このことは、いかに、農民からしぼれるだけしぼり取つていたかをよく示しています。藩は、農民のくらしが苦しいからといって、年貢を軽くするようなどはせず、逆に増税すらしています。農民を年貢を生む道具としか考えていない藩の政治に、が



まんしきれなくなった農民は、死を覚悟して村を逃げ出したり、一揆をおこしています。村を逃げ出した者は、年平均一〇〇戸、四〇〇人に達し、一揆は江戸時代を通じて二十四件発生しています。

九月三日、無事撤去されましたが、その間、一カ月近くは、おばあさんの十時アサ子さんやハチの追いかけてこの毎日。「ハエ打ち」でたたくやら、夜うるさくて眠れず、寝床をさるやら。おばあさんは、十回くらい刺され、終り頃は、もう痛みを感じないほどになっていました。

おばあさんの話によると、三年ほど前からハチの出入りが多くなつたようだ、とのこと。大量のハチに刺されると、人間でも命を落とすことがあるそうで、当日は、手袋、面布と完全防備のうえ、殺虫剤で撤去しました。



「屋根裏の巨大ハチの巢」



## みんなのひろ場

### 俳句

(25)

#### つれづれに

老人ホーム天郷荘 松本たかし

○梅雨ながくあければ残暑久しくて  
○冷しむぎつだけだしょうまし軽き昼  
○日の落ちて秋立つ気配映近く  
○僧の打つ盆会の鉦のころる浸む  
○新盆や病室の姥あはれ果つ  
○孟蘭盆会をの嗜みこぎつぱり  
○踊りの輪ちびつ子大勢手ぶりよ

### 遺句集

池田一歩

健康の言葉に「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し急ぐべからず。」と云う訓戒がある。当時としては、真に至言であったと思う。しかし、今日では飛躍的に寿命も伸びて実に三十年近い開きが生じている。そうなれば、この長い人生を重荷を負うて生きてゆくとすれば、考えただけでも大変で辟易する。

願望があり、心を多少でも満してくれるものが必要な気がする。そこで生き方の工夫が求められてくる訳だが。人間は生きてゆくかぎり何かの荷物は負うており、また負うべきである。何ひとつ荷物を負う気がないことは、何ひとつ夢が無いことでもある。こんなことも荷物の一つかと思える。例えば、将来に対する希望、目標を立て、そのための精進、努力は一種の荷物と思える。

荷主義の人生にびつたりの趣味である。前置きが少し長くなってしまつたが、今回、畏友、故高橋しげを氏の遺句集を編むに当り、故人の人生の軌道から思いを同じくするものが読み取れ感慨ひと入りのものがあり、敢えて一文を草し、追慕の念を新たにしているものである。氏は糸田の産である。かの赤池が生んだと申すより筑豊の逸材、故句狂氏の縁つづきで、若い頃より俳句を嗜みかつ精進を重ね、やがて炭坑俳句の作家としては他の追随を許さず、作風、実力ともに九州を代表する俳人にまで練達し、何人と雖もその価値をみだりに歪曲することは出来ない。

し、責任の一端は親にもある。器量佳しに加えて女盛り、しかも夏衣を着こなしている姿を見るとき、男はいくつになつてもほのかなときめきを感じるもので、心楽しいものである。草風とり呉る人うなじ見せ 野遊びなどで気つかぬうちに草風はつくもので、そうした時に気さくに取つてくれる女がいる。その折ちらと見えるうなじに女の色気を感じる。野を焼きし余燼に月ののぼりけり 野焼きと云えばかの阿蘇の広大な原野を思い出す。すさまじかつた野焼きも終えて勢子も家路につく。余燼なほ残る静かな中に、夜の帳のりる折か月が根子の嶮に顔を出し始める。人の世の営みと自然との取り合わせを巧みに捉えた絵を見るような非凡な作品である。

おめでとう  
「いっしょに喜びます」

9月10日  
町公民館で挙式

新郎 小松高則 さん (赤池町上野 23歳)  
新婦 児谷みどりさん (直方市植木 21歳)



「一緒になろうや」とプロポーズ「平凡な家庭にしたい」という新婦さんは、とても優しい人です。お子さんは男の子と女の子1人ずつほしいそうです。

1度の好奇心がわが身をそして家庭を崩壊させる

麻薬・覚せい剤撲滅運動

10月1日～11月30日

町統一秋祭り

10月9日 10月10日  
のどじまん大会 山笠共同運行